



天気

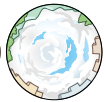
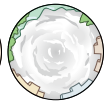


天気は、気温や湿度、風、雲の量、雨、雪などの気象に関する要素を総合した大気の状態のことです。

雲量



空全体に対して雲がしめる面積の割合を(1)といい、空全体を10としたときの雲量によって、天気は次のように決められます。

空の ようす						
	雲量 0	雲量 1	雲量 4	雲量 8	雲量 9	雲量 10
雲量	(2)		(3)		(4)	
天気	快晴		晴れ		くもり	

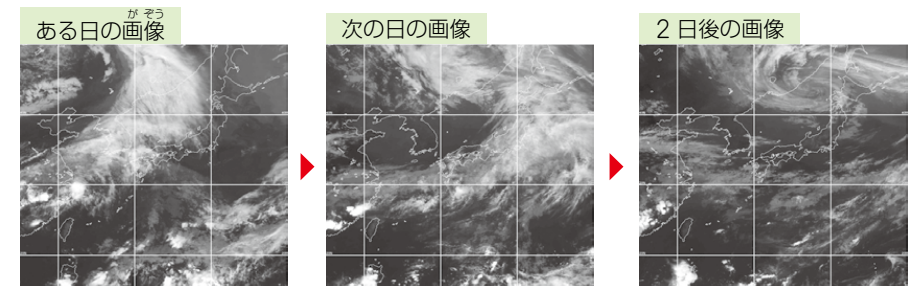
※雲量が0～8を「晴れ」と分類することもあります。

また、雲量にかかわらず、雨が降った場合は雨、雪が降った場合は雪、となります。

天気の変化



日本の上空では1年中、(5)という風が(6)へふいています。そのため、日本付近の天気は、(7)へと移り変わります。



雲



雲は、空気中の(8)が集まって(9)や(10)になってうかんだものです。

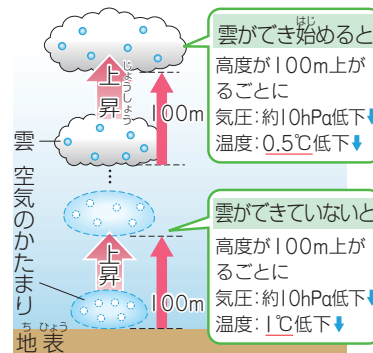
空気の(11)ことで、空気中にふくみきれなくなった水蒸気が水滴(氷)にかかります。



気圧・温度との関係

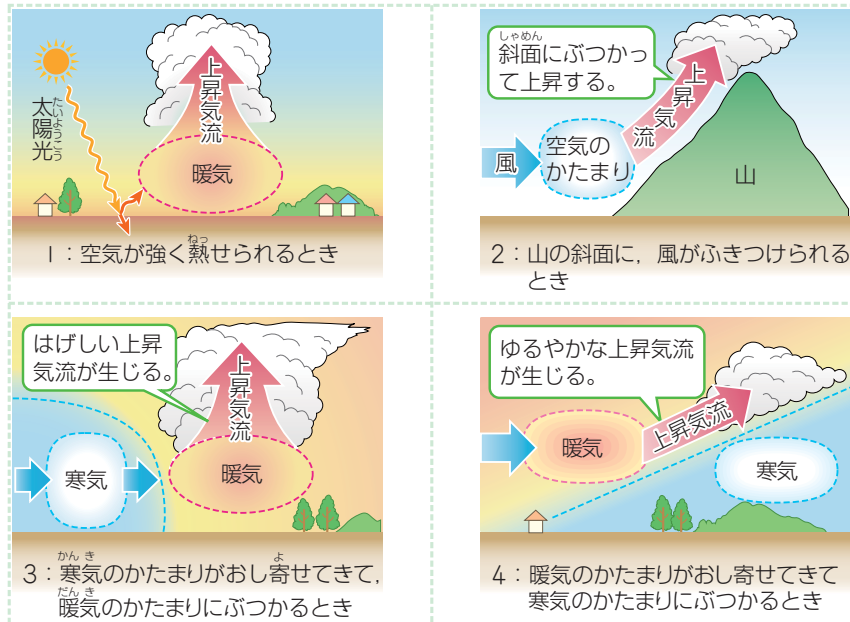
気圧は、高度が100m上がるごとに、約10hPa低くなります。

気圧が低くなると温度が下がります。雲がない状態では、高度が100m上がるごとに(12)します。ある程度温度が下がり雲が発生すると、高度が100m上がるごとに(13)します。



雲の発生

雲ができやすいのは、(14)が生じやすいときです。

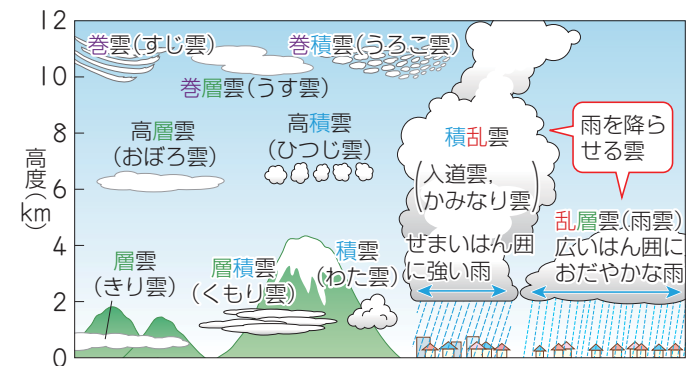


雲の種類



雲は、形やできる高度などから10種類に分類されています。

- ・巻雲：(15)ともいいます。上空の風が強く、晴れた日に見られることが多いです。
- ・巻層雲：うす雲ともいいます。
- ・高層雲：おぼろ雲ともいいます。この雲が厚くなってくると、雨雲になることがあります。
- ・巻積雲：(16)や(17)ともいいます。秋によく見られます。
- ・高積雲：(18)ともいいます。
- ・層雲：きり雲ともいいます。
- ・(19)：(20)ともいいます。低い空に見られます。この雲が発達して(21)になることがあります。
- ・層積雲：うね雲やくもり雲ともいいます。低い空に見られます。
- ・(22)：(23)や(24)ともいい、(25)によく見られます。低い空から高い空まで縦に発達した雲で、せまいはん囲にかみなりをともなった大雨を降させます。
- ・乱層雲：(26)ともいいます。低い空に見られ、厚くて灰色～黒色をしています。広いはん囲におだやかな雨を降させます。



+プラスワン

雲をつくっている水滴が集まって大きく成長し、上昇気流で支えきれなくなって落ちてきたものが雨です。雨粒の直径は数mmで、雲をつくる水滴の直径の数百倍にもなります。